



2023年2月
第3号



石川県警察
サイバー犯罪対策
「サイビット」

情報セキュリティ10大脅威について

今年の情報セキュリティで注意すべき点は何でしょうか。

今年1月25日、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が2022年に社会的影響が大きかったトピックをまとめた『情報セキュリティ10大脅威2023』を発表しました。

なお、このランキングは被害件数順というわけではなく、有識者による投票を経た結果となります。

前年順位	「個人」向け脅威	順位	「組織」向け脅威	前年順位
1	フィッシングによる個人情報等の詐取	1	ランサムウェアによる被害	1
2	ネット上の誹謗・中傷・デマ	2	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	3
3	メールやSMS等を使った脅迫・詐欺の手口による金銭要求	3	標的型攻撃による機密情報の窃取	2
4	クレジットカード情報の不正利用	4	内部不正による情報漏えい	5
5	スマホ決済の不正利用	5	テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃	4
7	不正アプリによるスマートフォン利用者への被害	6	修正プログラムの公開前を狙う攻撃（ゼロデイ攻撃）	7
6	偽警告によるインターネット詐欺	7	ビジネスメール詐欺による金銭被害	8
8	インターネット上のサービスからの個人情報の窃取	8	脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	6
10	インターネット上のサービスへの不正ログイン	9	不注意による情報漏えい等の被害	10
圏外	ワンクリック請求等の不当請求による金銭被害	10	犯罪のビジネス化（アンダーグラウンドサービス）	圏外

出典：独立行政法人情報処理推進機構（IPA）広報資料「情報セキュリティ10大脅威2023」
<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2023.html>

「個人」では「**フィッシングによる個人情報等の詐取**」が2年連続1位となっており、「組織」では「**ランサムウェアによる被害**」が3年連続1位となっています。

それだけ、被害が多い、または被害が重大であると言えるでしょう。

また、「個人」でも「組織」でも1位から9位は、昨年と同じ項目がランクインしています。つまり、昨年と同様か、それ以上に脅威への対策をとる必要があります。

○ 犯罪のビジネス化（アンダーグラウンドサービス）

近年のサイバー犯罪では、不正プログラムの売買や、不正に入手した個人情報の売買が行われています。売買だけでなく、そういった環境を支援するコミュニティやサービスも登場し、今やサイバー犯罪はビジネスとして成立してしまっています。

犯罪の手口を知り、しっかりと対策をとみましょう！

Twitter



@IP_cybertaisaku

石川県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課



076-225-0110



cyber@police.pref.ishikawa.lg.jp

Instagram



IP_cybertaisaku